

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
浦和記念	2018/11/23	JpnII	浦和	2000m	ハイペース	良	展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ブレイズアトレイル	牡9	56	西	ダイワメジャー	サンデー系	エルコンドルパサー	ミスプロ系	D	C	D	D	D	D		
2	2	アポロケンタッキー	牡6	58	モレイラ	Langfuhr	ノーザン系	Gone West	ミスプロ系	A	A	C	C	B	B	△1	
3	3	トーセンデューク	牡7	56	森	ディーブインパクト	サンデー系	Fairy King	ノーザン系	C	A	C	C	C	C		
4	4	ヤマノファイト	牡3	54	本橋	エスポワールシチー	サンデー系	フォーティナイナー	ミスプロ系	B	C	A	B	B	B	○	
5	5	コスモマイギフト	牡9	56	阪上	アツミラーレ	サンデー系	スピニングワールド	ノーザン系	D	D	D	D	D	D		
6	6	オールブラッシュ	牡6	58	田辺	ウォーエンブレム	ミスプロ系	Crafty Prospector	ミスプロ系	B	A	B	C	B	B	△2	
	7	シュテルングランツ	牡7	56	的場	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	C	C	B	C	C	C		
7	8	ガリバルディ	牡7	56	吉原	ディーブインパクト	サンデー系	Zafonic	ミスプロ系	D	A	D	D	C	C		
	9	グリム	牡3	54	内田	ゼンノロブロイ	サンデー系	サクラバクシンオー	ナスルー系	A	B	B	B	B	B	◎	
8	10	トキノエクセレント	牡10	56	高松	アツミラーレ	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	C	B	B	C	C		
	11	クリソライト	牡8	58	武豊	ゴールドアリュール	サンデー系	エルコンドルパサー	ミスプロ系	B	B	A	B	B	B	▲	

隊列図	見解	ラップタイム
シユテ オール グリム トーセ クリソ アポロ ヤマノ ブレイ トキノ コスモ ガリバ	浦和競馬場は南関東の中でもトリッキーなコース形態をしているため、地の利が生まれやすいコース（馬はもちろん騎手がコースを熟知しているかも重要）。ダートグレードにおいてもコース経験のある地方馬の活躍が目立ち、この浦和記念でも毎年のように地方馬が3着以内に好走している。3着以内馬の数で見ると、JRA勢が8頭に対し、地方勢が7頭。JRA勢と地方勢はほぼ互角の戦いを見せている。今年のJRA勢はグリムを除く3頭がG1（JpnI）馬。一見、豪華に見えるが、ピークを過ぎたクリソライト、テンのズブさや揉まれ弱さなど弱点がたくさんあるアポロケンタッキー、典型的な逃げ馬のオールブラッシュなど、必ずしも各馬が最高のパフォーマンスを発揮できるとは限らない。今年の浦和記念も地方馬の台頭が大いにあるレースだろう。それでは予想にいきましょう。 本命は グリム の充実度を買いたい。前走白山大賞典では2着センチュリオンに5馬身差をつけてのレコード勝ち。（以下省略）	回顧 次走狙い馬
ハイペース		

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ブレイズアトレイル		南関東のオープンでも全く通用していない馬。ダートグレードでは参加するだけで終わるだろう。		
2	2	アポロケンタッキー	△1	能力だけなら最上位も、JBCクラシックで全く走る気がなかったのが気になる。元々、ピンクバーカのタイプではあったが、年齢を重ねてそのふり幅がより大きくなっている印象。この枠でトリッキーな浦和コースだと揉まれて不発に終わるシーンは容易に想像がつく。		
3	3	トーセンデューク		前走埼玉新聞栄冠賞はノープレッシャーで楽に逃げられたのが勝因。今回は前に行きたい馬がズラッと揃ったので、前走の再現に持ち込むのは困難。ガチンコ勝負では分が悪いはず。		
4	4	ヤマノファイト	○	前走埼玉新聞栄冠賞は2着に敗れたが、勝ち馬トーセンデュークを楽に行かせ過ぎてしまい、脚を余しての敗戦。今回は叩き2走目、斤量4キロ減、展開面でプラスになる要素が多く、トーセンデュークとの着順は入れ替わるだろう。大型馬ながら操作性が高く、浦和のような小回りコースは合っているタイプ。		
5	5	コスモマイギフト		3走前の日本テレビ盃では12頭立てでの12着に敗退。こども回ってくるだけで終わるだろう。		
6	6	オールブラッシュ	△2	今回のメンバーで逃げを打つのは困難だが、無理に行かない選択をすれば、それがかえってプラスに働く可能性も。前走JBCクラシックは逃げ、先行勢を見る形でも被されない位置を確保したことでそれなりに踏ん張っており、馬群がバラけてストレスの少ない競馬になれば、上位争いに食い込んでくるかも。		
	7	シュテルングランツ		前走JBCクラシックは自分の形を作れなかったとはいえ、16頭立てでの16着に敗退。さすがに力の差を感じさせる内容で、ダートグレードでは荷が重いのでは。		
7	8	ガリバルディ		初ダートなのでどこまで走るか未知数な面はあるが、ピークを過ぎた上、初ダートがダートグレード。常識的に苦戦濃厚なのは。		
	9	グリム	◎	前走白山大賞典では2着センチリオンに5馬身差をつけてのレコード勝ち。ここ最近の金沢はラチを取れるかどうかですべてのラチ取り競走といってもよく、ラチ沿いを通れたアドバンテージは大いにあったが、それを差し置いても能力がなければ、できないパフォーマンスだった。		
8	10	トキノエクセレント		前走埼玉新聞栄冠賞ではトーセンデューク、ヤマノファイトに完敗といえる3着。今回はダートグレードで相手もさらに強化されるので、馬券圏内の好走はさすがに難しいのでは。		
	11	クリソライト	▲	前走JBCクラシックは16頭立てでの15着。全くレースには参加できなかったが、当日の京都ダートは内有利で、16番ゲートから終始外々を回ったのも多少影響したはず。16年浦和記念では2着に好走し、コース適性はすでに証明済み。前が速くなりそうなので、漁夫の利的に2、3着に突っ込んでくるかも。		